



皇后陛下が練馬区立美術館で、開館30周年記念「舟越保武彫刻展」をご鑑賞

と き 8月21日(金)午後6時～午後7時

と ころ 練馬区立美術館(練馬区貫井1-36-16)

皇后陛下は21日夕、練馬区立美術館を訪れ、開館30周年記念「舟越保武彫刻展 まなざしの向こうに」を鑑賞されました。

当日は、前川耀男区長、美術館の若林覚館長等が皇后陛下をお出迎えしました。

皇后陛下は、故舟越保武氏のご息女であり、過去に皇后陛下の著作を手掛けたこともある末盛千枝子さんの説明のもと、練馬ゆかりの作家である舟越保武の彫刻作品を鑑賞されました。

皇后陛下は、かつて愛読されていた雑誌に掲載されたドローイング作品「ANNA」の前で、懐かしいと感想を述べられていました。

同展は、9月6日まで開催しています。



ダミアン神父(昭和50年)ご鑑賞の様子

【舟越保武彫刻展の概要】

舟越保武(1912～2002)は、岩手県に生まれた戦後の日本具象彫刻界を代表する作家。ロダンに憧れて彫刻家を志し、大理石や砂岩などの石による清楚な女性像で知られています。

初めて大理石彫刻に取り組んだのは、練馬に在住していた昭和15年(1940年)のことであり、練馬ゆかりの作家でもあります。本展では、練馬で制作された初期の石彫から晩年に至る国内の代表的な作品約60点に加え、未公開を含む多数のドローイング作品を展示し、舟越の生涯と作品を回顧しています。(会期は9月6日(日)まで)



「ANNA」

(鉛筆・紙、昭和39年頃、個人蔵)

【練馬区立美術館の概要】(若林 覚館長)

昭和60年10月に開館し、今年で30周年を迎えました。

日本の近・現代美術を中心に165の企画展を開催、最近は近世、西洋にも展開しています。コレクションも寄託を含め6700点の重厚・軽妙・多彩な布陣となっています。

開館25周年時に初の民間出身館長として、サントリー美術館副館長・支配人などを歴任した若林覚館長が就任しました。キャッチフレーズとして「ときめきの美 いま 練馬から」を掲げています。

【美術の森緑地】

今年4月、美術館に隣接した緑地が「美術の森緑地」としてグレードアップしました。天然芝を敷きつめた園内に、20種類・32体のファンタジーな彫刻が並び、見て・触れて・想像を巡らせる「幻想美術動物園」として来園者を楽しませています。